

商店街名：足助中央商店街協同組合【豊田市、平成 29 年度指定】

1 活性化モデル商店街の概要

- キャッチフレーズ
満足を生む商店街

◎商店街の将来ビジョン

【現状と課題】

- ・当地区は、「香嵐溪」という紅葉の名所に隣接していることから、観光客を誘客するためイベントを開催しているものの、毎年減少している。
- ・また、人口減少や少子高齢化に伴い、顧客の減少、店主の高齢化、後継者や担い手の不足及び必要店舗の不足が進み、賑わい不足となっている。特に若い人にとって魅力的な店が不足しており、情報も不足している。

【対策】

- ・香嵐溪への誘客及び重要伝統的建造物群保存地区の商店街をPRした事業の推進、情報発信と体験型イベントを通じてレベルアップとリピーターを増やす事業の推進、地域コミュニティの場の提供（強化）に取り組んでいく。

◎具体的に取り組む事業内容

○スタンプラリー事業（29年度～32年度）

「中馬（ちゅうま）のおひなさん」で来街者が多いシーズンに合わせ、足助商店街地区の重要伝統的建造物群保存地区とお店を巡るスタンプラリーを開催。

○中馬塾（29年度～32年度）

「中馬のおひなさん」期間中の毎週土曜日または日曜日に、来街者に個店や商店街の魅力を知ってもらうための交流型イベントを開催。

○足助マルシェ（29年度～32年度）

中馬街道「塩の道」として古くから交流拠点として栄えたことを活かしてマルシェを開催。

2 活性化モデル商店街の実績・成果等

◎商店街の将来ビジョンの実績

- ・ 椙山女学園大学の学生と連携し、学生が町並みをガイドする事業を行ったり、QRコードを用いたクイズ形式のスタンプラリーを取り入れるなどして、若年層の顧客獲得に繋げることができた。
- ・ ヘルスサポートリーダーによる健康づくり講座を定期的実施し、高齢者の居場所を提供することができた。

◎事業実績

○スタンプラリー事業（H29年度～R2年度）

『中馬（ちゅうま）のおひなさん』で来街者が多いシーズンに合わせて足助商店街地区の重要伝統的建造物群保存地区とお店を巡るスタンプラリーの実施。

○まちゼミ（H29年度）

『中馬のおひなさん』期間中の毎週土曜日又は日曜日に体験型の『まちゼミ』を実施。

○足助マルシェ（H29年度～R2年度）

重要伝統的建造物群保存地区に選定された地で、中馬街道「塩の道」として古くから交流拠点として栄えたことを活かして市を開催。地域の特産品を活かした商品開発と組合員店舗の店頭でワゴンセールを実施。

○中馬塾（H30年度～R1年度）

『中馬のおひなさん』期間中の毎週土曜日又は日曜日に体験型の『中馬塾※』を実施。

※『中馬塾』…来街者と事業者が直接交流できる体験型のセミナー等を開催

○町並みさんぽ（R2年度）

『中馬のおひなさん』期間中の土曜日、日曜日に体験型の『町並みさんぽ』を実施。

◎事業の効果

- ・ 歩行者通行量で見ると、平成30年度の841人に対し、令和元年度は1,103人と増加しており、回遊性の向上、来街者の増加に繋がった。
- ・ 空き家を活用し、新たに3店舗が出店した。（令和元年2件、令和2年1件）うち2店舗は継続して事業を行っており、商店街の活性化に繋がった。

◎新型コロナウイルス感染症を踏まえて取組んだこと

- ・ アルコール消毒の実施、パーテーションの設置などの基本的な感染症対策を行った。
- ・ 継続して定期的な事業を行うことにより、安心、安全なイメージ付けとなり活性化に繋げることができた。

◎その他の成果

【H29】

- ・ 愛知学院大学が卒業論文作成のために訪問

【H30】

- ・ 北海道 商工会連合会十勝支部が視察
- ・ 筑波大学 学生が重要伝統的建造物群保存地区に登録された町並みを生かしたまちづくり

をテーマとした研究のために訪問

- ・名城大学、中京大学、淑徳大学、名古屋市立大学が卒業論文作成のために訪問



(足助商店街スタンプラリー)